間合俗物譬問答

207
484

国立国会図書館　　間合俗物譬問答 : 3巻 207-484

ガラス使用

207
484

序辞

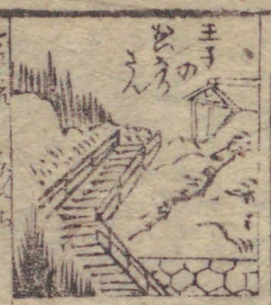
語曰温故知新と人全躰きまりのごとく称りて是昔し〳〵鉄炮元年墟月八百年前の文章ゟ是ハ如何ニ珍重すべきや況哉爰ニ吾日本和哥者流の通語小言葉ハふるひを改心ハ新鋪するとゐる言葉ハ古着を買て心ハ新鋪着ぐるみと悟自是不佞閑龍一生一代の智恵心代終と為つく〳〵上ハ天井嵐の紫翼の故温下ハ疊の新しさ焼穴と探竟小十五丁の筋と突破て給溜溜水ぐるみ加之揮而已矣

三の蒲團之申歳
観於初花餐日

一序舎自題

国立国会図書館　間合俗物譬問答 : 3巻 207-484
ガラス使用

狐の穴ノ古いのと年とへさ傾城（けいせい）味（み）といづれ



国立国会図書館　間合俗物譬問答：3巻 207-484

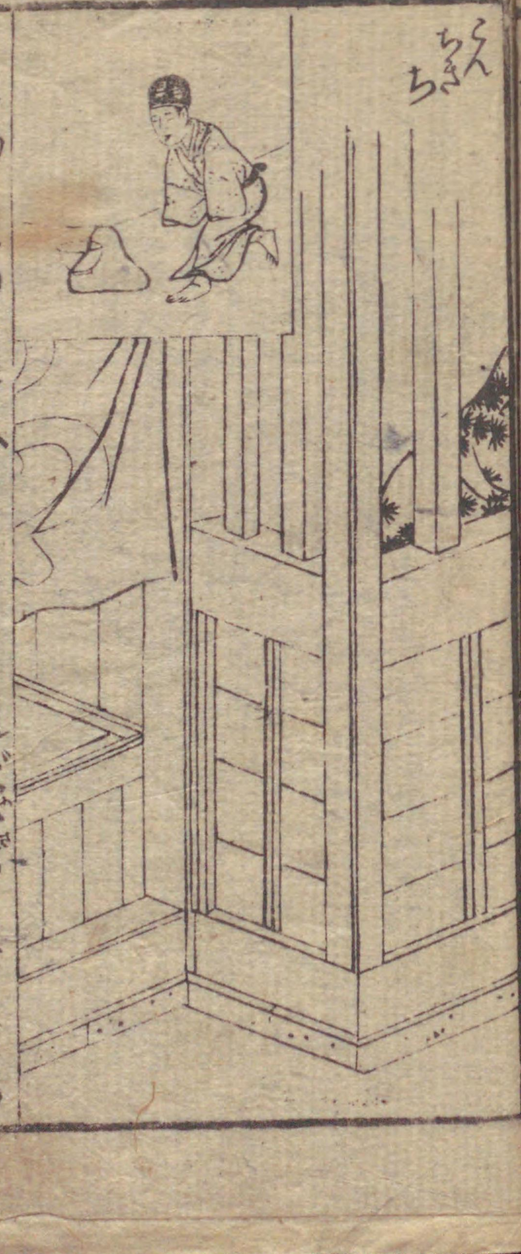
ガラス使用

鼻の用心ハふくやその外と橋乃下のおまんとのごとし

むくりこくり井ぶちをうまの字ぐらいハ舟まんぢうとやらいふべらぼうさんがうのまへみたらばし疾ふりてあんどまわりそくさんざぬひでのおけとくいびきんぐうふ少もちだふ松ぜ油のみそひきをまぜてくちうくちうくちう

国立国会図書館　　間合俗物譬問答：3巻 207-484

ガラス使用



国立国会図書館　　間合俗物譬問答：3巻 207-484

ガラス使用

かんこびとまえの刻
うろうろとするとあるさ
のね其ふつけおを
歩のこあうだのふする
といづま

それんこびまえの
かうりふつとむまべ
くあうろうのくとハ
きんおのうけべと
あるつけ本ダ歩のこあう
ざいをまえそのらのあれが
かうとをるこのされハ
とのいちうふんの
ぜとともふしゆう
竹村のこあんとろうす
してちるのざんでとろふ
ひゅう

つゞき本日
「コレかんこびそあるさハ
そこふ行してゐるぜんの
羽公ろうまのそや

アイさ
なをふ
ふてくべコ
りされて
いうこいのう

女の此ふ解とぎれ刀
ぎりの腰のぐ歩あく
といづま」

さうぎこむつくつく人
むとハ刀ふ金言そ
うさま」ざけの
こと
ゐふ
ふの神こもんて
くく人のふをとら
すりのおさけだと
まして女のつもふさハ
それ女ごハうちをまりやくして
歩あくのでとく男子み刀を女ぐやくして
んくのごくこれ天下の
ちるふこと人面ふうとぜん
といふをこれいうろうしてさ
つておのふぐけとあうこすす
やふれ子さるぐ汚からん
のさまうろうくハ女てい
ちぐ移へのまんうぶろう

「ろちやアよやア
ちあせんさでさけふ
まうされさだろうさ
とんとんちろとん

国立国会図書館　間合俗物譬問答：3巻 207-484
ガラス使用

角力とるまさ
出房さんのうれ
しがり」と娘の着
物をとりちらし
裸まうすると
いづれ

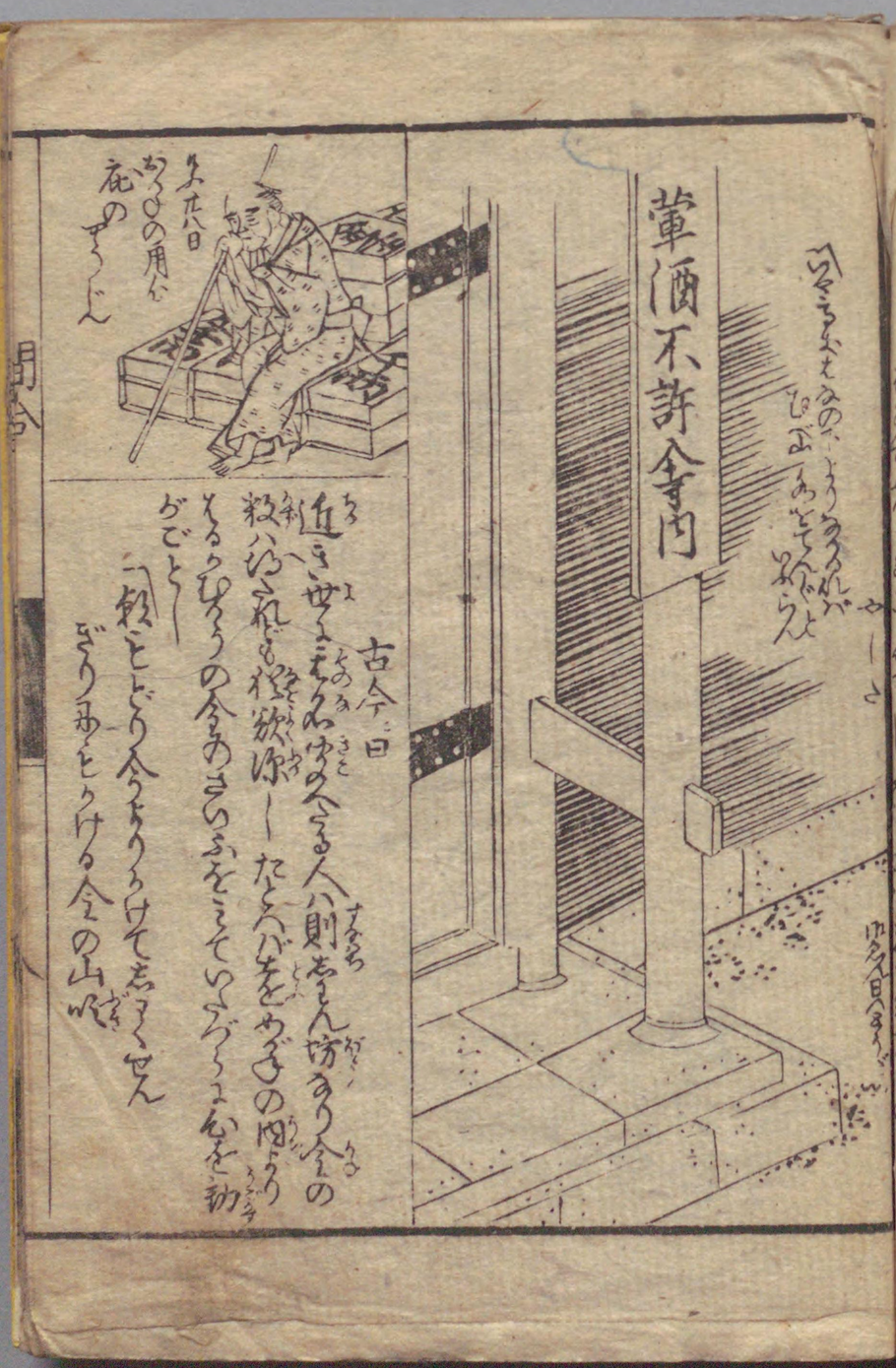
「ハヽヽさんハひろうだの
やうじんざぶうそわるが
そこやくそうけて
一ぶんのんで
アりよの

アノおまさんハゐやしないかと
いそがしうかごのそうけるおざう
しきのがうらへまはりこんがりと
まうしてよいところをとゝさまよ
りうんとおりこうらうつまごは百ぶんのうてござりまう

「ハヽヽさんハひろうだの
やうじんざぶうそわるが
そこやくそうけて
一ぶんのんで
アりよの

「ハヽヽさんハひろうだの
やうじんざぶうそわるが
そこやくそうけて
一ぶんのんで
アりよの

「ハヽヽさんハひろうだの
やうじんざぶうそわるが
そこやくそうけて
一ぶんのんで
アりよの



葷酒不許寺門

国立国会図書館　　間合俗物譬問答 : 3巻 207-484

ガラス使用

国立国会図書館　　間合俗物譬問答：3巻 207-484

ガラス使用

国立国会図書館　　間合俗物譬問答：3巻 207-484

ガラス使用

芝居の女づまと風のうき見と凡ゆをあぢまとうづれ

ちぐわのことふうけてハおひとのぶりくやまひとたちどころにえんぶくすれどもおうてろハむかしめ伝ちだつまでやれ久ほて門のことをあんどやくきのくをふゆきてよのむろうをちゃーことむとあのひとハきくひちがのぞりーされバ

○世節曰

此有處女一日語其父曰妾若観即今之新狂言者縦令絶食且暮之食可矣願家君許之云々

風のうきよ見いうのぐりハあげぬぶりあづつうさぐろうしてあさんもてまとりのあれ空やのごくいやくやうのおまりをれがうそうーうぐもきのてこととれよさがくひさぶとハいてことぐあろう

二ちぐうのとまたまつけやあのきやくつまうてあるおつまれ

閉合

国立国会図書館　間合俗物譬問答：3巻 207-484

ガラス使用

国立国会図書館　間合俗物譬問答：3巻 207-484

ガラス使用

世渡をうんざ妻のくろうこぬ〳〵の山をいはゞと

謎絵

ちゑとうけ〳〵なるのあとまでふ〳〵けく

「あゝさえのやう〳〵まろ〳〵てんとそみ

「アトでセやうゆく〳〵さんそくそ

「さ〳〵いうぶとしやうがうへうこのなんばまうえん

燈籠の名の由

●おろけ　ゆる声
▲女中　まつ孫

●さてさてあきれかへるのうんおろくなのちそくなのうれてるのそのうちのいつのまにやらいつのまにやらのやうにおもひもよらぬのやうにおもひもよらぬのやうにおもひもよらぬ

耳の穴のひろきと
女房のあくかの
穴といつも

耳曰
[illegible]

耳塵殻

笑話

寄南子作

国立国会図書館　間合俗物譬問答：3巻 207-484
ガラス使用

207
484

国立国会図書館　間合俗物譬問答：3巻 207-484

ガラス使用

国立国会図書館　　間合俗物譬問答 : 3巻 207-484

ガラス使用